

# 和紙だより

## 創刊の言葉

このたび、福井県和紙工業協同組合の新しい事業として「季刊和紙だより」を創刊いたします。タイトルは「季刊和紙だより」としました。このニューズレターは、越前和紙のみならず、和紙産業全体の活性化に資するさまざまな情報ツールとしての役割を指します。

和紙を含む伝統産業は、国民のライフスタイルの大きな変化の波を受けて、いずれも非常な苦境に立たされています。その中でも「素材」の生産を中心とする和紙産業は、新しい商品を通じた消費者への訴求が難しいなど、特に将来を展望しにくい状況にあると思います。

一方で、「和」「アジア」あるいは「エコ」「ナチュラル」への関心の高まりの中で、グローバル化を背景に、海外から多くの和紙風素材が流入しています。

今こそ、「和紙」が生き抜く新しい道筋を見つけ出す時です。そのためにまず、内外の状況と時代の流れをつかみ、産地・業界がこれを共有するための情報源が必要であると考えました。原料・生産・流通・企画・デザイン・加工などが連携して、新しい流れを自ら創り出して行くために、この「季刊和紙だより」が少しでもお役に立つことを切に期待しています。

2003年12月

福井県和紙工業協同組合理事長 長田昌久



■橋田祐司さん（照明デザイナー）

「まず、一般の人と触れ合う仕掛け作り」

### ●和紙は誰でも大好きです

照明デザインを長いことやっていますが、和紙はいつもそばにありますね。風合いの良さに加えて、扱いやすく、繊維が長く洋紙より加工性がよいので一般の人にも入りやすい素材です。若い人からお年を召した方も年齢を問わずみんな和紙は大好きですよ。しかしながら、その扱い易さや加工の仕方を知っている人は少なく、実際紙漉などを体験してもらったりすると本当に皆さん興味を持たれます。照明塾では手作りの灯りのキットと濡れた和紙の材料を販売していますが、実用と趣味をかねて灯りを作りたい人は潜在的に多いですね。

### ●一般の人と触れ合うことが重要

和紙の需要喚起という面では、まず一般の人と触れ合うことが重要だと思えます。美濃和紙の灯りイベントなどはもう十周年です。灯りと火といったものは人間を引きつける原初的な魅力がありますので、人が大勢集まってくるし、また和紙に触れ、職人に触れ、勿論和紙を買うこともできます。私のようなデザイナーから見ると、職人さんが不良品だといって捨てた穴の開いた和紙や漉き損じの紙等にもイメージを刺激されて、かえってきれいな紙じゃないからこそ、面白いデザイナーを思いつくこともあるのです。

職人さんももっと一般の人の前に出ていった方がいい。プロには常識の和紙の技も一般の人にとってはとても感心する技ですし、理解してもらうことができます。反対に一般の人が何を求めているかも肌感覚でわかってくると、人との結びつきができてお互いに楽しく、今度はこんな紙を漉いてみようというチャレンジ精神も出てくるのです。

### ●自分たちが面白いと思うことから

和紙の業界は中間の問屋さんなどが複雑で一般の人が欲しい情報や買える場所にまでたどり着くのに、距離がありすぎるのです。和紙の風合いや技術、イメージなどがよくわかった窓口が少ないのです。

### ●産地を知ってもらう場作り

最近では、灯り、和紙、というテーマで一般の人と産地の人が触れ合うイベントや町おこしの仕事をする機会が多くなってきました。子供達と一緒に手作りの灯りを作ってみる教室や職人さん達と何かデザインしてみるワークショップなどです。作ったものは、必ず一般の人の目に触れるようにコーディネートします。情報は発信するところに必ず集まってきますから。

現在進行中の秋田県の横手でのイベントは「やさしい灯りにあふれる町」というテーマで、かまくら、街並みの灯りに加えて、雪と灯りという美しい風景に少しメルヘンの匂い付けをし「灯りの妖精コンテスト」「灯りの妖精の童話コンテスト」として子供達も参加できるものにしてしようとしています。プレイベントとして、手作り灯り教室を開きましたが、二千人も集まりました。女性に大いに活躍しても

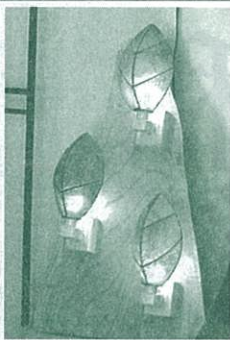


らうのもコツです。

●照明塾とライトセラピー

照明塾を始めて十年になります。和紙を使った灯りには、人の心を穏やかにしてくれるセラピー効果があり、「ライトセラピー」として提唱しています。これは音楽を例にとると分かりやすいのですが、疲れてくつろぎたいと思っている時に、リズムの激しいロックミュージックが流れてたら、ゆっくり休んでなんかいられません。そんな時は、誰でも静かでゆったりとした音楽が聞きたいものです。

これと同じことが照明でも言えます。キヤンドルや白熱灯のように波長の長い赤や黄系の光はゆつたりしたい時に適しており、蛍光灯のように波長の短い青系の光は活動的な時に適しています。ある研究によると、就寝前に白熱灯で過ごすから、光による癒し効果はかなり有効だと言えます。しかも和紙には自然素材特有的「ゆらぎ」があり、それが人間の生体のリズムに合っているのです。このような効果も現代人には大変求められているということをおアピールしてもいいですね。



■橋田 祐司  
大阪在住。プロト商品計画代表取締役。照明デザイナー。事務所にて、手作りの灯りを楽しむための「照明塾」を主宰。和紙、葦紙を使った照明器具提案など。著書「あかりのレンビ1」、「あかりのレンビ2」。NHK趣味百科「手作りの灯りを楽しむ」に出演。

■渡辺和さん（伝統的工芸品産地プロデューサー）  
「越前の特徴を活かす」



●文化に裏打ちされた高級市場

和紙といえど、何百年も伝承されてきた素材ですので、文化的にも高い技術が蓄積されています。ところが、古美術文化財の表具修復する技術を支えていた素材、道具が最近では失われてきて、例えば吉野で漉いていた表具用の極薄の和紙製造の後継者がいなくて大変困っています。

欧米にある日本古美術修理保存の研修留学している人も今後の対処の危機を語ってくれましたが、日本国内自体でもっと問題視する必要があります。このような消えていく技術がそのままいいのかと

いうこともあると思います。十九世紀初頭に和紙を使用した高価な美術本などの紙として輸出されていた時期の流れをどうするかといったことも同様です。何故かという、文化的に高度な知恵を失ってしまうと、大衆製品にばかりに流れでしまって、クリエイティブで、本当にセンスのいい、もう少し平たくいうと審美眼を持っているお金持ちの人たちの嗜好に答えるような質の高い和紙製品が、提供できなくなるのです。このような商品は、特注の分野もあり、単価は高いですが、いいものを創るために欲しい方はいらつしやいます。現代においても、越前の技術の特徴や文化的に蓄積されてきたものは、高級和紙、大きな紙が漉けるというような特徴がありますから、高級な市場をどのように手中に治めるかという課題があると思うのです。

東南アジアの紙などは価格も安いし大いに驚異かもしれません、その分野は、若い方相手や変わりやすい市場で、ファッションシーが求められます。それはそれで一つの和紙の市場なのですが、もう少し年輩の方やインテリ層、ライフスタイルにこだわりを持っている方で、和紙の伝統を現代生活に活かしたいと感じていらつしやる層を開発してください。

●住空間に今、求められているもの

たとえば、東京は今、第二次バブルのように高層の高級マンションが建てられています、コンクリート・ガラスと金属の居住空間の窓際スペースのしつらえに

しても、相変わらずカーテン一辺倒です。戦後洋風化の波の続く中で、カーテンは住宅の中でも大いにその市場を広げてきたわけですが、ここへきてカーテンだけでは、もの足らない。ほこりもかぶるし、日本文化の持つ自然を感じさせたりおぼろげなやわらかな光の演出などの住まい方に合わないといふ気付き始めています。要するに、東京のように大都会で、人々は本当は住まい環境にもっと緑も欲しいのですが、そのような場所も望めないで、せめて家の中はゆつくり落ち着けて、自分たちの中に知らず知らず継承されている日本風の美意識で空間を和らげたいという欲求があり、そのようなものを求めています。

一部の建築家や経師作家はこのようなニーズに応える試みを始めています。デザイナーの川上元美さんが最近提案している高級マンション内装で、室内の仕切りに開くか閉じるかでむき出しに空間を仕切るのではなく、光と陰を微調整できるような、天井まであるいわばおおぶりな壁のようなニュー障子を提案されています。カーテンのようにひだがあつてボリュームがあつて見るからに暑苦しいものではなく、シンプルで楚々としていながら、見え隠れする空間を演出することができます。窓際の演出も、カーテン以外にはブラインドやスクリーンがありますが、未だこのような欲求に応えられないレベルにまでは進化はしていません。しかも和紙は現代建築のツンケンした雰



囲気を和らげてくれるばかりでなく、健康にもいい呼吸するインテリア素材ですから、壁紙など時流に乗れる切り口はもつとあります。日本工芸の現代プロデューサー縄文社の横山祐子さんは山荘の壁・天井に和紙の袋ばりをほどこして新しい日本様式の安らぎ空間を実現されています。

### ●美意識を引き出す新しい表具

また、麻植生素子（まいおもとこ）さんという新表具作家は、現代生活における新しい経師を提案しています。昔から掛け軸は季節感を表したり、心のよりどころとなる書画などを身の回り置いて生活に潤いを与えたり、姿勢を正す精神的なしつらえという意味がありました。

このような象徴性をもう一度、現代生活に新たに活かし直したいという意図があるようです。家族にとつての記憶の場、一種の祈りの場として掛け軸や屏風を、新しい手法によって演出することもできます。おじいさんが取って置いた昔の絵や某かのいわれがあつて手元に残っている絵を、インテリアにも合う表具にし直して飾っておくとか、子供が描いた絵を掛け軸にするとか、骨董的な価値云々ではなく、その家族にとつて大切なものを掛け軸・屏風にして、一つの家庭の風景に加えてはどうですかという提案ですね。油絵でもない、現代的なポスターでもない、しつくり落ち着く和紙を活用した生活空間に住み手の感性が表現できます。かつて家には大黒柱があり、床の間があり、

上座、下座がありました。今では部屋に正面というものがありません。封建的な意味ではなく、押しつけがましくなく、モダンなやり方で正面を取り戻すことで視線のやり場がきまり気持ちが落ち着くということもあります。こういった古い作法の再現に新しい試みとして和紙の新たな居場所があるのではないのでしょうか。

### ●リッチ層相手の一つ上に行く小物

小間紙の世界でも、高級市場を狙うとしたら、お金持ち相手の葬儀のお返しや祭事用の品々、季節を演出するセンスのいい、気の利いたギフトや家族をびつくりさせるようなエンターテイメント性のあるギフトなどがあります。前記した縄文社では、外国の方にお送りしてもひけをとらない正式な和紙のステーショナリー、祝儀・不祝儀袋なども開発されています。インターネットのホームページで紹介、通信販売をされています。（縄文社：<http://www.handmadjapan.com>）

例えば、ある著名な評論家がお亡くなりになったとき、お返しにイタリア製の美しい花形をした素敵なキャンドルを頂きました。このキャンドルを部屋で灯し、個人的に亡き人として向き合う時間を作っていただければという家人の願いです。雑然と葬儀場などで事務的に葬儀を済ませるのではなく、現代の人が去られた故人への真摯なお別れを演出する道具でした。このようなものが、和紙でも提

案できるのではないのでしょうか。単価が高くても、センスがあつて意味のあるものにはニーズがあるということですね。

現在、百貨店の売り場での業績は余りよくありませんが、通販はそれほど悪くありません。最近では、むしろ通販やインターネット販売からトレンドが始まり、次に百貨店の売り場に流れてくるという構図になってきています。質の高いものが提供できれば、流通にお金をかけなくて通販からでも、市場を徐々に広げることが可能です。その他、高級旅館のスーヴェニールや限定商品などを売っているところなども可能性があるかもしれません。

「家庭画報」「和楽」「サライ」などは、このような情報を得る手軽なメディアです。家庭画報の通販なども参考にしてみて下さい。アメリカの通販ではニューマン・マーカスなどの様々なアイデアの宝庫です。ただし、その思いがけないキュートな魅力なのでそのまま日本市場に活用するのではなく、ユーモア、ドラマ性など御自分ない感性を刺激し活用してみるのです。



高級マンションのプレミアムに配られた湿気取り。卵を割って使用するようになっている。

お葬式のお返しに戴いたイタリア製の花形をしたキャンドル



### ■渡辺 和

伊勢丹研究所にて家庭用品、インテリア、インテリア小物、食品フロア、食堂フロア等、生活関連の様々なマーケティング・ディレクションを手がける一方、アジア地域などの海外の地場産業、国内の地場産業のコンサルティングも数多く手がける。近年、東京墨田、浅草の地場産業、まちづくりプロジェクトに町のマーケティングという視点から参画。伝統的工芸品産地プロデューサー登録者  
現在、渡辺 和研究所。



情報のページ

■訪れて見ようインターネットで和紙情報

和紙の情報はインターネットでも気軽に見ることができます。他産地の動き、イベント情報、ショップ情報、インターネット販売など、あなたの参考にして下さい。

●美濃和紙灯りイベント：http://www.minokanko.com/

本文でも橋田さんが触れている美濃和紙の灯りイベントのホームページです。10年目を迎えた美濃和紙のこのイベントも一般の人に定着してきました。町おこしにも和紙が一役かっている好例です。

●国際的な和紙総合情報（英文）

http://www.kippo.or.jp/culture/washi/index\_e.htm

「和紙と暮らす」と題されたページには和紙の歴史や種類、現代生活に活かす和の心、折り紙職人情報など、一般の人にもわかりやすいこなれた口調で解説しています。外国でも、人気の高い和紙だからこそこのページ作りです。

●阿波紙ファクトリー展覧会情報：http://www.awagami.or.jp/news/2001/matuya/

各地で行われる阿波紙イベントや取り上げられた記事などニュースが充実しています。印刷との相性なども説明。和紙の手芸教室なども行っており、和紙ファンの様子もかいま見ることができます。



●情報をお寄せ下さい

季刊和紙だよりは産地からあなたと一緒に情報発信を試みる第一歩です。こんなイベントがある、こんなショップがある、こんな取り組みをレポートして欲しい、など皆様からも情報・ご意見・ご要望をお寄せ下さい。

●資料コーナーを開設しました

組合会議室の一角に資料コーナーを開設する予定です。和紙関連の雑誌や参考品、催しのご案内などを置きたいと考えています。良い資料や情報などがありましたらお知らせ下さい。

●メイリングリストを開設します

皆様の情報交換の場としてメイリングリストを開設する予定です。日常感じた意見、興味深いと思ったこと、参考になること、新しい試みなど産地の交流の場としてお役立て下さい。詳細は次号でお知らせいたします。

●編集委員を募集します

これから、和紙産業の参考になる様々な場へ出向いて取材をしたり、お話を伺ったりする予定です。取材や編集作業を通じてネットワークも生まれ、情報発信の練習にもなります。また直にお話を聞くことで新しいアイデアも浮かぶと思います。経験は不問です。あなたも編集委員になりませんか？お問合せは組合事務局まで。

編集後記

何事も始めるということは、骨の折れる仕事です。創刊号の内容は取材した内容のほんの一部です。小さな情報発信もやはり「持続は力なり」だと思います。それにしても改めて和紙ってみんなが好きで好感を持っている素材なものには驚きました。この思いを産地にもうまく活かしたいですね。次号は徹底座談会と和紙イベント・レポートを掲載予定です。（よ）

●最近の話題

- 11月3日文化の日、国の重要無形文化財保持者である岩野市兵衛氏が旭日小綬賞をお受けになりました。
- 11月6～9日、富山県高岡市において「2003伝統工芸ふれあい広場」が開催され、越前和紙から墨流しの実演・体験などが出展されました（詳細は次号）。
- 12月1日、鳥取県因州和紙協同組合のみなさんが越前和紙の見学に訪れました。
- 12月2日、愛知県小原村-魁-小原塾(和紙のふるさと事業)のみなさんが越前和紙の見学・体験に訪れました。

●イベント情報(平成16年1月)

- 越前和紙繁盛祈願祭が、平成16年元旦午前9時30分より、紙祖神・岡太神社にて行われます。新しい年の繁栄を祈願する式典です。みなさんご参加下さい。
- 福井県「越前・若狭」の物産と観光展が、1月23～28日、東京・新宿の京王百貨店7階大催事場で開催されます。